2010年（平成22年）9月8日　水曜日
日経産業新聞

VB
仕掛け人

ドーガン・インベストメンツ
シニアファンドマネージャー　林　龍平氏

投融資通じ地域雇用確保

中小企業基盤整備機構や地元大手金融機関が出資する「チャレンジ九州・中小企業がんばれファンド」は、福岡の投資ファンド、ドーガン・インベストメンツ（福岡市）が運営する。九州企業の応援を目的としてこれまでに15社へ投資した。実際に運営を担当するドーガンの林龍平シニアファンドマネージャーに話をきいた。

はやし・りょうへい　1976年（昭51年）福岡県生まれ。99年九大法卒、住友銀行（現三井住友銀行）入行。01年シティバンク・エヌ・エイ入社。05年ドーガン・インベストメンツ入社。経営不振企業の資金調達支援や財務内容改善コンサルティングなどに携わる。

――どのような企業に投資しているのか。

「業種や社歴はまちまちで、九州大学発の創薬ベンチャーから老舗印刷会社、設立から90年以上たつ運送会社までである。最近はIT（情報技術）関連会社が多い。一貫性がないように映るかもしれないが、『成長することで地域に貢献できる企業』に投資している。企業の側も地元経済が地盤沈下を起こしていることに危機感を持っているところは多い」

――投資先へはどのような形でかかわるのか。

「投資する15社中、上場を目指すのは3分の1程度。上場にこぎつけた企業はまだない。当社の出資分は優先株や社債などで保有することが多い。ファンドには金融業界の出身者が多いため、資金調達に関するアドバイスを求められる。出資者の銀行なども含め、投融資一体型でやっているため、融資を受けやすくなる会社も出てきている」

「社外取締役やオブザーバーなど、肩書はさまざまだが、毎月の取締役会には必ず出席する。企業にとっては耳に痛いことも平気で言うようにしているので、議論はいつも白熱する。先日もある企業の取締役会が4時間半にもなった」

――九州の企業の特徴は。

「最近では立ち上げ時から地域貢献に重きをおいている企業も出ている。九州は東京に比べ住環境が良く、職住も接近しているため、優秀な人材を確保しやすい。最近では東京の大手企業を顧客に持つIT企業も育ってきている」

――今後の方針は

「地元中小・ベンチャー企業と大手の連携を進めていきたい。アジア企業との連携なども模索する考えだ」

（西部支社　関根晋作）